

早期発見で怖くない 認知症を予防しよう

認知症は脳の病気です

年を取れば誰でももの忘れなどをするようになりますが、認知症は老化ではなく、脳の病気です。記憶や思考などの能力が少しずつ低下して、日々の生活に支障が出るようになります。原因となる脳の病気や障害が出る脳の部位などによってさまざまな種類や症状があります。



加齢によるもの忘れと認知症の違い

加齢などによるもの忘れと認知症によるもの忘れは違います。たとえば、食事の内容を思い出せないといった体験の一部を忘れるのは普通にみられるもの忘れですが、食べたこと自体を忘れてしまう場合は認知症が疑われます。

加齢などによるもの忘れ

記憶の帯



体験の一部を忘れる



- 体験や出来事の一部を忘れる。
- ヒントがあれば、忘れた部分を思い出すことができる。
- もの忘れをしている自覚がある。
- 人や場所までわからなくなることはない。

日常生活に大きな支障は出ない

認知症によるもの忘れ

記憶の帯



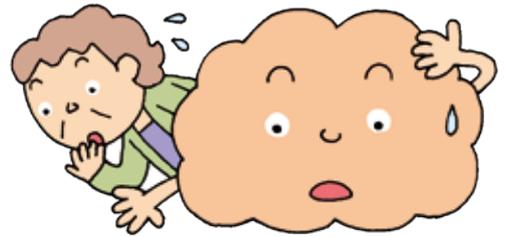
体験全体が抜け落ちる



- 体験や出来事のすべてを忘れてしまう。
- ヒントがあっても思い出せない。
- もの忘れをしている自覚がない。
- もの忘れがひんぱんに起こる。
- 人や場所までわからなくなることがある。

日常生活に支障が出る

認知症にはこんなタイプがあります



アルツハイマー型認知症

いちばん多い認知症です。脳の機能が全般的に低下していきます。脳の変化は症状が出る何十年も前から起きており、徐々に進行していきます。

症状や傾向

- 女性に多い。
- もの忘れの自覚がなくなる。
- ゆっくり症状が進行する。
- 人格が変わることがある。

血管性認知症

脳梗塞や脳出血などの病気で、病変部分の脳細胞の働きが失われることで発症します。脳梗塞の再発などで症状が段階的に進みます。

症状や傾向

- 男性に多い。
- 意欲が低下しやすい。
- 片麻痺や言語障害などがある。
- 人格や判断力は保たれる。

レビー小体型認知症 4.3%

血管性認知症 19.5%

アルツハイマー型認知症 67.6%

前頭側頭型認知症 1.0%

その他 7.6%

レビー小体型認知症

脳にレビー小体という物質(タンパク物質)が蓄積されて発症します。生々しい幻視(ないものがあるように見える)があらわれるのが特徴です。

症状や傾向

- 手足の震えや筋肉の硬直で転倒しやすい。
- 夜中に夢を見て騒ぎ立てる。
- そこにいない人や動物、昆虫などの幻視がはっきりとあらわれる。

前頭側頭型認知症

脳の前頭葉や側頭葉が萎縮して発症します。理性や感情がコントロールできなくなり、常識を逸脱した言動などがみられます。

症状や傾向

- 同じ言動を繰り返す。
- 興味や関心が薄れやすい。
- 万引や信号無視など社会のルールに違反したことをする。

円グラフ資料：「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」(厚生労働科学研究 筑波大学 朝田教授)

どうして早期発見・早期治療が大事なの？

治る認知症があります

早く治療すれば治るタイプの認知症があります。また認知症に似た病気を見逃さないことも大切です。

進行を緩やかにできる認知症があります

アルツハイマー型認知症や血管性認知症は、早期から薬を服用すると進行を緩やかにできる場合があります。

適切な対応で症状がやわらぎます

症状に応じた適切なケアによって症状が緩和したり、落ち着いたりします。